

門真市総合計画審議会 第4回審議会（第2部会） 議事録

場 所：門真市役所別館 3階第3会議室

日 時：平成21年10月6日（火） 午後2時30分～4時30分

出欠状況：審議会委員（五十音順） 敬称略

第1号委員（市民）

豎月邦治

第2号委員（学識経験者）

川勝健志（部会長）・末村祐子・寺前 章・村田文雄

第3号委員（関係行政機関）

山口利廣（欠）

事務局：門真市総合政策部

部長 北口政昭 次長 稲毛雅夫

企画課長 水野知加子 課長補佐 小野直宏

係員 十河大輔・湯川みずほ・高田賢一

受託業者：株式会社かんこう 馬場明男

1. 開会（事務局）

2. 議事

（以後、部会長が議事進行）

案件1. 門真市第5次総合計画<基本計画>（案）について

◇事務局より門真市第5次総合計画<基本計画>（案）基本計画各論第6章第1節について説明

（本案に関する意見）

| 発言者 | 内容 |
|-----|---|
| 委員 | 第1節「1. 物を大切にする循環型社会や地球にやさしい低炭素社会をつくります」の現況と課題にどのような形で入れるかは別として、最近、国が方針を出している温室効果ガスの25%削減について、ふれておいた方がよいのではないかと思う。 主要施策の「(1) 地球環境保全対策の推進」の「1) 循環型社会形成の推進」の指標に「門真市域のごみの排出量」が5年後、10年後は「減少」となっている。行政としては啓発が主な施策とは考えられるが、具体的な目標が設定しにくい指標なのか。達成状況が把握できる指標にした方が意味をもつのではないかと考える。 主要施策の「(1) 地球環境保全対策の推進」の「4) 公害対策の充実」の指標に「苦情の年度内解決率」となっており、現状は100%で5年後、10年後も100%となって |

| | |
|-----------|---|
| 事務局 | <p>おり、「苦情の年度内解決率」にもう少し深い意味があるのかもしれないが、苦情については、きちっと対応しているということだけになるため、苦情の件数が少ない方がよいかという課題はあるが、苦情を減らしていくなどの目標の方がよいのではないかと思う。</p> <p>第1節「1. 物を大切にする循環型社会や地球にやさしい低炭素社会をつくります」の現況と課題について、国が方針を出している25%削減を、どの程度書き込めるか、一度、検討をさせて頂きたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>主要施策の「(1) 地球環境保全対策の推進」の「1) 循環型社会形成の推進」の指標に「門真市域のごみの排出量」については、担当課から目標を数値で表すのは難しいと聞いているが、再度、担当課と調整し、検討をさせて頂きたいと思う。</p> <p>ごみの排出量を減少させることに対して行う行政としてのアクション、例えば、PR活動などについて指標化した方がよいと思う。このように目標を設定することが難しいものについては、活動していくことを指標にし、目標値を意味あるものにしていった方がよいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>指標については、活動指標と成果指標のいずれもできるかぎり指標を設定することから、ごみの排出量を減少については、置き換えが可能か検討を行い、置き換えが可能であれば、変更したい。</p> |
| 委員 | <p>「4) 公害対策の充実」の指標である「苦情の年度内解決率」については事務局としても、現状は100%で5年後、10年後も100%であるため、担当課とも調整を行ってきたところである。担当課としては、苦情があれば年度内に解決しているということを表しており、この水準を保っていきたいという思いである。この水準を下げないということからこの指標にしていきたいという意向である。事務局としてもこの指標については何度も担当課と調整してきたところであるが、再度、審議会からの意見として担当課とも調整を行い、検討をさせて頂きたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>例えば、これまでの解決する期間が数ヶ月であったものを短縮するというようなことも改善に繋がる目標になるのではないかと思う。やはり、達成しようと意欲がわくように、改善されていくということが分かる数値の目標がいるのではないかと思う。</p> |
| 事務局 委員 | <p>ごみの排出量については、全体の量では分かりにくいとのことであれば、市民1人当たりのごみの排出量を減らすというような指標も考えられる。</p> <p>市民1人当たりのごみの排出量も含め、指標を再考したいと思う。</p> |
| 委員 | <p>国の方針として出された温室効果ガスの25%削減について、主要施策の「(1) 地球環境保全対策の推進」の「3) 環境保護活動の推進」での指標では、10年後10%の削減となっている。国の削減目標も踏まえて、本市での目標も再考をした方がよいのではないかと思う。25%削減ということ達成していくのは難しいとしても現在提示の10%とはかなりの開きがある。市として明確な考え方、目標を示しておいた方がよいのではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>市として取り組むことができる削減の目標をきちっと示すことが重要ではないかと思う。</p> <p>「3) 環境保護活動の推進」での指標である10年後10%の削減は「門真市エコオフィス計画」において設定した平成17年から10年後の削減目標を提示している。</p> |
| 委員 | <p>前政権の18%から現政権の25%になったが、全て国内で削減するというものでもなく、排出権取引も含めた削減目標である。市としては排出権取引も含めてというわけにはいかないの、国の削減目標と異なってもよいのではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>市レベルでは、ごみの排出量との相関が最も強いと考えられるため、ごみの排出量の目標設定とも調整を図りながら考えていく必要がある。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | 市外に住んでいるものの視点から、門真市は生活と産業のまちであるというイメージはもっているが、この環境面では、門真らしさや柱がないように思う。 |
| 事務局 | 本市の環境面をPRするならば、本市のリサイクルプラザはアジアでも有数のもので、ホームページを見て、中国や韓国などからも見学に訪れると聞いている。またリサイクルや分別収集も相当前から取り組んでいる。 |
| 委員 | 施設の先駆度は市民意識とトレードオフとの関係になってしまうこともあると思うので、いかに環境教育と組み合わせていくかが鍵になると思う。アジアの中でも有数のリサイクルプラザが優れているのかということと住民意識の高揚の双方から相乗的に環境面を向上させていくという方向があれば、これまでの努力と併せて今後の柱が見えてくるのではないかと思う。 |
| 委員 | 議会としてもリサイクルプラザや分別収集については先進市であるという自負はもっている。環境教育面でも小学校4年生が見学をしている。子どもが施設を見学することにより、ごみに対する意識も変わると思う。子どもだけではなく、いろいろな団体を通じて、市民ももっと見学することにより、ごみの削減ももっとできるのではないかと思う。 |
| 委員 | 市民でありながら、リサイクルプラザがそんなに優れたものだと、今の話を聞くまで知らなかった。門真の今の一番の問題は市民が誇りに思うものが少ないということではないかと思うので、広報にもエコプラザの記事は掲載されているが、アジアでも有数の施設であるといった内容を、この総合計画に文章で入れるなどにより市民にもっとPRをしていった方がよいのではないかと思う。 |
| 委員 | 市民に周知を図るような文章を入れることにより、もっと効果が出るのではないかと思う。 |
| 部会長 | 地球環境保全対策の推進が主要施策の柱の一つになっているが、門真市も地球の一部であるが、地球全体の環境を保全することになると門真市との乖離を感じる。温室効果ガスの削減に門真市は積極的に取り組んでいくということであれば野心的な目標設定ということでもよい。先ほどの話ではリサイクルが柱ということであれば、地球環境保全対策について合意がないならば野心的な目標設定は難しいと思う。門真市という一つの自治体が温室効果ガスの削減に努めても、その便益は究極的には地球全体のものになってしまう。地球環境の問題に対し、なぜ、門真市がお金と時間と労力をかけてしなければならないのかということになってしまう。しかし、地球の問題であるもののローカルな問題でもあるので、門真市は積極的に、野心的に取り組んでいくということであれば、それは意義があることなので、その点の門真市の立場、ポジションを明確にしておけば、温室効果ガスの削減の件も整合がとれるのではないかと思う。 ごみのリサイクルについて、資源をもう一度活用しようということで見聞が良いように思うが、リサイクルしたものがあまってしまふということになれば、結果的にはごみになってしまう。最大にして最高のごみ対策としては、ごみの排出量を減らすということになる。指標をどうするかは別として、ここで言われているごみの排出量の削減は重要な課題である。リサイクルの促進だけでは、ごみ問題は解決には結びつかないので、リサイクルの目標とごみの減量の目標が連動し、整合が図れるようなものにすればよい目標になるのではないかと思う。ごみの減量は、ごみを燃やすことにより発生するCO ₂ の削減に結びつき、地球温暖化対策にも影響を与えるものであり、環境問題と同時に考えていくことが必要であると思う。 |
| 事務局 | 「4) 公害対策の充実」の公害は、どのような公害を想定されているのか。 |
| 委員 | 臭いと騒音と震動が主なもので、苦情としては騒音が多い。 騒音は、どこからの騒音が多いか。 |

| | |
|-----|--|
| 委員 | 工場も多いが、住宅地にあるカラオケスタジオなどの対策をしてほしいということがある。 |
| 事務局 | 本市の場合、中小企業が多く、工場の転出跡地に住宅ができ、住工混在となり、本来は工場が先に立地していたが、後から住んだ居住者からの工場の公害への苦情が出てくる。基準や規制内のものであっても、住んでいるものからすれば、気になる部分もあり、すぐに解決するものもあれば、裁判などになるものまであり、難しい課題である。 |
| 委員 | 環境面でも生活しやすいまちを積極的に推し進めていくというようなストーリーが描けそうな感じがする。その点も検討をして頂ければと思う。 |

案件2. 総合計画（案）に対する前回部会での意見と対応方向(案)について

◇事務局より「総合計画（案）に対する前回部会での意見と対応方向(案)」について説明

（本案に関する意見）

| 発言者 | 内容 |
|-----------|---|
| 委員 | 23 頁の家族の絆という家族の観点を入れることに賛同する意見はたくさんでているが、これまでの日本社会の家族のイメージに限定し、今後の多様性を排除してしまわないかと思う。今後の多様な家族のあり方についてもふれておいた方がよいのではないかと思う。 |
| 委員 部会長 | 今後、多様な家族の形を認める方向で、文章化しておいた方がよいと思う。具体的な修正案はあるか。 |
| 委員 | この 23 頁のどこかにふれられていたらよいのではないかと思う。 |
| 委員 | 15 頁の「重点的に取り組む視点と課題」の修正が提示されているが、カラーにしてわかりやすくできないか。 |
| 事務局 | 1 頁の「計画のコンセプト」や 15 頁の「重点的に取り組む視点と課題」については、印刷の段階で、デザイン等も検討しながら、カラーにするなど検討をしたいと考えている。 |
| 部会長 | 2 頁の P D C A サイクルについて、何か定まった定義はあるのか。 |
| 事務局 | P D C A サイクルについては、I S O 等で使用されている。また、「A」は「Action」としていたが、改善し、行動するという意味から「Act」とした方がよいのではないという意見も頂いており、「Act」に修正している。 |
| 委員 | 47 頁の「2) 消防力の向上」の指標が「公設消火栓設置箇所数」に修正をされているが、この指標の修正で部会委員が合意できるか、諮っていただきたい。 |
| 委員 | 本来、設置しなければならない箇所数ということ把握はできるのか。現状の水準がどのレベルにあるのかが分からない。現状で十分なのか、不足しているのか、今、提示の文章では把握しにくい。 |
| 事務局 | 全道路の総延長は今すぐ回答できないが、消火栓は、概ね 100m に 1 箇所設置することが望ましいと聞いている。市道認定道路においては概ね 100m に 1 箇所設置されている。目標については、新設道路などにおいて消火栓を新設したり、既往の消火栓の改良や付け替えなどさまざまなことがあり、具体的数値の提示が難しいため「拡充」という目標にしている。 |
| 委員 | 目標を示す指標として妥当かどうかということもある。 |
| 委員 | 消防力の充実ということに対する指標であり、現状が高水準を保っているのので、あえてこの指標をもってきたという説明は少し適切であるとは言い難い。 |

| | |
|-----------|---|
| 部会長 委員 | 場合によっては無理に指標を掲げる必要がないのではないかと思います。 消防の機動力が高まってくると、現在は、自然水利が少なくなり、消防車などが現場に集中した場合に、2 栓分岐という方法もあるが、1つの消火栓からは1台が使用することになり、他の消防車はさらに別の消火栓を使用することが必要になる。また、門真市の場合、埋め込み型の消火栓が多く、消火栓上の違法駐車を無くすように努力はしているが、使用できない消火栓もでてくる。そのためには、消火栓が少しでも多いということは消防力の向上に結びつくことになる。拡充していくということは予算の確保も必要であり、大変だと思うが、市民の安全のために、市民に安心感をつくるということであれば、少しでもたくさんある方がよいと思うので、この指標でよいのではないかと思います。 |
| 委員 | 消火栓は現状の基準以上にある方が安全につながるということであれば、指標の意味は理解できる。 |
| 委員 | 消火栓がどのような役割を果たしているのかなど、理解をしている市民と理解をしていない市民のギャップを取り除いていくことが大切だと思うので、どのような拡充を図るのかを示すことにより、市民の安心感をつくることに結びついていくのではないかと思います。 |
| 委員 | 「2) 消防力の向上」については、もともとは消防署の配置の見直しを施策の目的として、「…、今後の組織体制のあり方などを守口門真消防組合とともに検討します。」となっていたが、公設消火栓の設置による消防力の向上ということになれば、少し文章の整合性を図る必要があるのではないかと思います。 |
| 事務局 | 公設消火栓設置の拡充は、「2) 消防力の向上」のための機能を強化するということと考えており、整合性はあるかと考えているが、消火栓の関係で議論があったように、もう少し説明を加える方向で検討したいと思う。 |
| 委員 | 先ほどの説明は実態をしっかりと把握したうえでの説明であり、説得力もあるかと思う。 |
| 部会長 | 消防力とはいったい何をもっていうのかということだと考えるので、その点が指標と整合をとれるようにしていくことが重要だと思う。その点も考慮して少し修正を加えて頂ければと思う。 |

案件3. その他について

◇事務局から次回第5回審議会を10月23日（金）午後2時から第2会議室において開催することについて説明

閉会（部会長）